

# 不都合な真実

平成 23 年 4 月 18 日

3 月 11 日、日本は、信じがたいような大惨事に見舞われました。東日本大震災がもたらした津波被害の激甚。その苦しみの中で、多くの人々が、途方に暮れながらも手を携え、耐え、未来へ踏み出しています。大震災の様子は、瞬く間に世界各地に報道されました。美しい三陸の海岸も、のどかな港町も、実り豊かな田畑も消えてしまった。被災した人々の絶望を慰める言葉は見いだせない。

世界の人々は、災害のすさまじさに驚くとともに、過酷な状況でも、冷静に協力し合う日本人の姿に感動し、称賛のエールを送りました。

それに対して福島原発事故は深刻だ。旧ソ連で起こったチェルノブイリ原発の事故と同じレベル 7 と報告された。「広島に投下された原子爆弾 500 発」に相当する放射性物質を飛散させた、原発史上最悪の事故だ。この事故の原因と対策は非常にシンプルだ。

原因は想像を絶した津波だ？（しかし、明治の三陸沖約 150km を震源とするマグニチュード 8.5 という巨大地震によって、三陸のリアス式海岸の特殊な地形と満潮時に重なったため、大きな津波が三陸沿岸に襲来、村落を飲み込んだ。最大の津波高さは 38.2m であった。死者は 22,066 人、流失家屋は 8,891 戸の大きな被害をもたらした。）昔の教訓は生かせなかった。

本来なら原発事故に際して機能するはずのバックアップの仕組みが全く機能しなかった。

海水をかぶり電源を喪失してしまったからである。

東京電力、原子力安全・保安院、政府の対応は世界の人々はどう見ているのだろうか、実は真実の報道はほとんど一般には知らされていない、本当に、日本の復興に目を向けていると言えるのだろうか、目まぐるしく変わるいい加減な情報、被災者を混乱に巻き込み、政府・東電が真実を明らかにせず、これでは一般の国民が「事態が悪くなった」と感じるのは当然だし、もう少し専門的知識を持つ人たちは、事故が悪化したとは思わなくても、政府・東電の隠蔽体質に、さらなる恐怖を感じるだろう。原発事故に対する対応の真実は自分の耳を疑いたくなる無責任極まりない。

福島第一原発3号機では、高い濃度のウラン燃料に加え、プルトニウム燃料も使っている。プルトニウムは、ウランよりも激しく燃える為、死の灰の放射能レベルは高く、燃やした後の使用済み核燃料の崩壊熱も高い。つまり、冷却することができなくなり、燃料棒が水位面から露出して、水素が発生し、格納容器が爆発した時、大量の放射性物質が放出されたのは、燃料に大量の死の灰が入っていたからである。福島第一原発の3号機の周辺で400ミリシーベルトというとても高いレベルになったのは、濃度の高いウラン燃料とプルトニウムによるものである。3号機はプルサーマルであることも、日本人には何も知らされていない。健康に心配なのは、外部被曝よりも、放射性物質を吸い込み体の中から被曝する内部被曝のほうである。政府も専門家も、わざと外部被曝と内部被曝を同時に扱い、健康に心配ないと国民を騙し続けている。

内部被曝の場合は、体の中にある放射性物質が、じわじわと長期間に渡って放射線を出す。そのため放射線によって周りの細胞は破壊される。具体的には、免疫細胞が破壊され、遺伝子が傷つくことになる。その為、放射線の量がごくごく微量でも、健康に被害が出る。内部被曝の場合は、10年後、20年後にガンにかかるということになる。内部被曝の恐ろしさは、目に見えないごくごく小さなホコリを吸い込み、被曝したとは知らない内にガンにかかるリスクが高まっていくということにある。政府や専門家やマスコミは、この内部被曝の恐ろしさを、まったく国民に知らせていない。原発処理にあたる作業員に対する配慮としたら大きな間違いである。

なぜこのような事実を海外から報告され日本のマスコミは報道しないのでしょうか？

それは報道できない理由があるからでしょう。国民の理解を得るために真実を隠蔽するのなら、それは国民に対する背信行為でしょう。原発に限ったことではない。今さえよければよいのでなく、これからの若い世代、将来に対してどうなのか、誰がどう責任を取るのか、何もかもが場当たりの国内政治にしても党利党略に固執し、今何が求められているのか政治家自身の資質が疑われる、この国のことを考えていない。先進国としての自覚が必要だ。

地方政治にしても自分の地域だけでなく市議員なら市全体を、県議員なら県全体を広く考えてこそ自分の職務であり、狭い自分の地域だけのことしか考えない「おらが先生」では今の時代どうにもならない。日本だけでなく世界に目を向けてどうなのか、どうあるべきかグローバルに考えなければ「世界の笑いもの」になっても信頼されることにはならない。「すべての人に信頼される」ためにはどうあるべきだろうか。信頼とは何か？一部の人に信頼されて

も、すべての信頼を得ることにはならない。信頼とは何かを理解し、そのためには何が必要か深く考えることが必要だ。真実を知らさないで信頼が得られるのだろうか？ 今回の原発事故の風評被害は東京電力、原子力安全・保安院、政府、マスコミの対応が真実をほとんど一般には知らされていないこと、その不安によって生み出されている。4月20日になって20Km圏内を警戒区域（立入禁止）に指定した。理由は危険だからということで詳しい情報は発表されてない。

トヨタのプリウスのリコール問題も以前ふれたように「トヨタの品質は世界一」結局アメリカの高級車「レクサス」の死亡事故に対抗したアメリカの日本に対する罾であった。結局不具合は立証できなかったのだ。出る釘を打たれたのだ。トヨタの品質は世界一の水準には変わりない。なぜなら「トヨタの規格」は信頼されるそのもので事実・真実を追求して生まれた厳しい規格によるものだからだ。同じ仕事に自分自身が携わったからで、日本の自動車産業は信頼のもとにあると言っても過言ではない。規格を守れば良いものしか出来ない仕組みだからだ。言葉では簡単に言い尽くせない厳しいものだ。顧客の信頼を得るためには真実・事実（品質）に基づいて、きれいごと、おべんちゃら、ウソ、ものを隠すなど通用しない。原発処理の対応とは雲泥の差がある。政治家のこころ変わる発言は事実・真実が語られない。相手によって都合よく語られるから不都合な真実は隠してしまうから不安を生んでいる自身の資質が低下しているとしか言いようがない。 つづく

ここからは5月28日に記載しています。すでにこの項目で述べたことがそのままそっくりと問題となり始めた。内部被爆の問題、1~3号機稼働していたすべての原子炉においてメルトダウンの可能性が強く最悪の事態だ。安全だ、安全だ、と言葉だけ並べても根拠はなく誰も信ずる者はいない。現役世代のほとんどは最初から政治家、東電、原子力委員会、偏ったマスコミ報道など完全に離れてしまっている。不都合な真実は隠されているからだ。情報弱者が騙され続けている。戦後67年変わらない農政の問題も全く同じことだ。しかもある程度知識を持ち合わせている者までも思い込んでしまっている。自分で勉強がたりないのか古い頭で変われない人、こうした状況が続くようでは日本の衰退はますます深刻な状況となる。時間が経過して、しまったと思って気が付いた時はとんでもないことになっている。昔の大本営発表と同じことが今も続いている。しかし、多くの方からメールを頂き自身がしっかりと正しい情報と状況を判断することだ。『言いたい放題』で書いていることのほとんど当たっていると頂いているのも本人にとって妙な気持ちだ。